

1. 授業科目と単位：情報行動論 ()講義 (○)演習 ()実習 2 単位
2. 履修対象者：(○)D1,(○)D2,(○)D3,(○)D4,(○)D5:(○)文化科学研究科,(○)総研大の全研究科, その他 ()
3. 授業担当教員：三輪眞木子
担当教員との連絡 (e-mail、電話、FAX、研究室)：
質問は e-mail か e-mail で調整した時間の面談を歓迎。
(miwamaki@nime.ac.jp、電話 043-298-3208、メディア教育開発センター研究棟 608 号室)
4. 授業実施期日時間：(対面講義) 2007 年 4 月 12 日-7 月 19 日毎木曜日 10:00-12:00
5. 授業実施場所：(対面演習) メディア教育開発センター 8F 総研大講義室
6. 履修条件、受講方法：
社会科学研究における定量的研究と定性的研究の研究設計と研究評価に関する基本的な知識を持っていることが望ましいが必須ではない。授業は対面演習で行う。
7. 授業内容の概要：
デジタル環境における情報探索行動、ブラウジング行動、情報回避行動等の情報のモデル化と理論生成、情報行動抽出法について研究指導する。中でも、情報探索行動は、学習者による自主的な学習行動であり、e-learning への新たなアプローチとしても注目されており、その基礎として、情報行動研究領域における理論的基盤と教育学領域における理論的基盤を結びつける概念モデルや理論生成が求められている。この授業では、主として情報行動研究における既往研究から生み出されたモデル、理論、メタ理論を紹介し、それらを受講者の研究計画立案に結びつけるスキルを身に付けさせることをめざしている。
8. 授業の達成目標：
1. 情報行動研究へのアプローチは、システム指向とユーザ指向の 2 つのパラダイムが並存しており、近年では後者のパラダイムにおける研究が進展している。両者のアプローチにおけるメタ理論 (哲学的な立場) と方法論の歴史的背景と違いを理解する。
2. ユーザ指向の情報行動研究における研究ツールとしてのデータ収集およびデータ分析のための主要な手法の使い方を理解する。
3. ユーザ指向の情報行動研究から生み出された主要なモデルと理論を理解し、受講生の研究設計に組み入れる方法を習得する。
4. ユーザ指向の情報行動研究プロジェクトの研究設計ができる。
9. 授業計画：
(対面講義) 日程 内容
第 1 回 4 月 19 日 オリエンテーション
第 2 回 5 月 26 日 研究アプローチ
第 3 回 5 月 10 日 モデル・理論・メタ理論
第 4 回 5 月 27 日 研究設計の枠組み

- 第5回 5月24日 研究計画書の設計
- 第6回 5月31日 情報行動研究における倫理的側面
- 第7回 6月7日 情報行動研究の主要モデルと理論
- 第8回 6月14日 情報行動研究の手法と方法論
- 第9回 6月21日 データ収集手法
- 第10回 6月28日 データ分析手法
- 第11回 7月5日 研究評価の枠組み
- 第12回 7月12日 研究設計のプレゼンテーション (受講者)
- 第13回 7月19日 まとめ

10. 使用参考書、参考文献：

テキストは、以下を使用し、その他の資料はコピーを配布する。

三輪眞木子. 情報検索のスキル：未知の問題をどう解くか. 東京, 中央公論新社, 2003,214p.
(中公新書 1714)

参考書は以下を推薦する。

Creswell, J. Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Method Approaches, 2nd ed. Sage Publication (ISBN: 0761924426) 2nd edition, 2002.研究アプローチへの手がかりを与える

Case, D.O. Looking for Information: A Survey of Research on Information Seeking, Needs, and Behavior. San Diego, Academic Press, 2002, 350p.情報行動研究の包括的なレビュー

11. 単位取得要件と成績評価基準：

達成目標1～4を踏まえて、情報行動研究プロジェクトの研究計画書(A4版5ページ以内)を期限(平成19年9月27日)までに提出した受講者のうち、要点を理解していると判定されたものに単位を認定する。成績は可否で示される。

12. その他のコメント

本講義で扱うモデル、理論、研究手法に関しては、学習者の自主性を尊重し、研究計画書も学習者の学位論文のトピックに沿ったものとする。